

# 美術館からのメッセージ

No.3

## ～画家として、 一人の人間としての 香月泰男とは～

多くの方々の深いご理解とご支援により、すばらしい美術館が完成しました。  
今年十月二十五日(月)竣工・オープンをめざして準備が進められています。美術館の完成に伴い、今回は建物の中にあるレリーフ(浮彫)について、画家香月泰男とはくについてみました。

『シベリア・シリーズ』は画家香月泰男の代表作であることはご存知のとおりですが、画家が生涯で一番暗く悲惨な事に遭遇し暗黒の地での地獄を見、体験をモチーフにキャ

ンバスへ描き現わすことが無言の語りであり、また死者(戦友達)への哀惜と鎮魂の祈りでもありました。

そして、その生存者の一人として戦争の無意味さを後世に伝える事を義務として描いた『シベリア・シリーズ』の作品の中の「避難民」、「雪窓」、 「囚」をとりあげ美術館の南側と西側(プール側)の外壁にレリーフがされています。

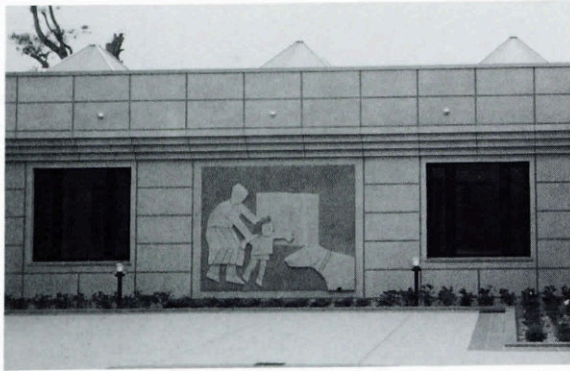
また同じ『シベリア・シリーズ』の中の代表作でもある「私の地球」という絵があります。この作品には香月画伯の思いや絵を描くことへの原点があり、前者の作品のテーマを「戦争」と例えるならば、この作品のテーマは「平和」だと言えらると思います。

なぜなら「私の地球」という絵には、「ここが私の空であり大地だ。ここで死にたい。この土になりたいと思う。思い通りの家の思い通りの仕事場で絵を描くことが出来る。それが私の地球である。」と画家はこの作品に添え書きし、終生ふるさと三隅を愛し原点である「平和」な作品

を、思い通りの仕事場(アートリエ)で隅の山や川を、春夏秋冬の花や昆虫達を、そして魚貝類、鳥や野菜など身の回りのすべてのものに無限の愛情を注ぎ描れております。

特に「母子像」という作品は溢れる愛情と平和への表現であるかのように描れてあり、自己体験からなる「平和」への象徴だったのでと……。その母子像シリーズの中の一点が、中庭の外壁にレリーフとしてあるのです。

そして美術館には「平和」への象徴的作器群が沢山収蔵・展示されることとなります。是非ご期待を!!



## 町民文芸

### 俳句

清風句会

(六月) (五十音順)

緑陰に乳ふくませる若き母 上田 雪子

緑陰の下で家族の憩あり 沖村美智子

緑陰に子等を遊ばす若き母 木村 智子

棧橋の先端に居る雨蛙 齊藤 元

先客のありて緑蔭入りがたし 仁保 民子

院の庭緑蔭有りてスケッチする 松田 妙子

清流をすいすい泳ぐ雨蛙 松永 保代

緑陰に一つの白衣みおやかな 藤沢 忘帰

緑蔭に時を忘れて話し込む 山城てる子

緑蔭や入日が染めし向う岸 山野タケ子

緑蔭や古墳の眠り深くせり 和田 英二

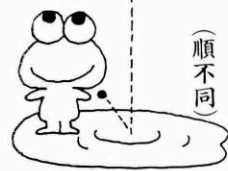
選者追吟

水無月の猫がしきりと顔洗う 富田佳津美

## 短歌

三隅短歌会

(順不同)



背びれ立て尾びれたたきて 村田 敦子

の包丁こばみて闘うガラ魚 田中 朝子

関節の痛み堪えかね目覚むれば 外も夜通し風吹き荒るる 吉村 恵子

寂し夜は天井に言問いかけて 紛らわすとふ姑病みて三年 白井 麻子

破竹とると藪ふみ入れれば倒されし筍あまた猪のわざならむ 石村 栄助

日もすがら降り頻く雨に枝垂れつつ五月の花の土に俯く 岡 松子

主婦の座に古りてなごめりくばみたるまな板を千す花咲く庭に 古屋 博子

風紋をふみつつ行けばさらさらと素足にやさし砂丘の砂よ

山かげの昏る、海面にひかり

つ、稚き魚の集ふ水の輪

伊藤 一郎